

JAMCA ジャムカ

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.48

2006年1月1日

発行
協会事務局

編集事務局

全国自動車整備専門学校協会

〒160-0015 東京都新宿区大京町31

ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066

〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3

☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988

ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

新時代の若者への期待、そして行動へ

日産栃木整備専門学校校長
全国自動車整備専門学校協会理事

石田 智昌



あけましておめでとうございます。新年を迎え、あらためてカレンダーを見ますと、2006という数字がフレッシュな感じで目に入ります。ついこの間、2000年という節目の時を迎えたばかりのような気がしていたのですが、10年ひと昔という言葉からしますと、2010年までの折り返しの年に入ったということでもあります。この2010年までを見越して、私たちの活動はどうあるべきなのか、新年に当たってあらためて考えてみたいと思います。

目的意識をもって入校

数年前に“18歳人口の減少”ということが言われました。最近では“少子化”という言葉が、いたるところで目に入ります。どちらも高校卒業者が減少するということであり、教育の職に携わる者にとって、厳しい現実を突きつけてきています。

しかしながら、こういった厳しい現状も、このように考えるとどうでしょう。子供の少ない家庭では、それだけ集中して親と子供のコミュニケーションがとれるはずです。そしてそんな環境で育てられた子供は、色々な場面で自然に目的意識を持って行動できる人間に育つ可能性が高まるのではないかということです。

私たちの整備の世界を例にとれば、学校の先生に薦められたからといった受動的な動機で入ってくる学生が減り、逆に、自分は整備の世界をしっかり勉

強して、将来はこんな形で社会に貢献したいんだという目的をはっきり持つて入ってくる学生が増えてくるのではないかということです。

もちろん、こういった目的意識を高校生に芽生えさせる試みは、毎年5月に発行するJAMCAニュースでも取り上げてきたわけですが、家庭での親子のコミュニケーションには勝てるものではありません。

このような学生が増えてくると、どういうことになるでしょうか。単に自動車整備技能登録試験に合格すればよいとする学生はどんどん減っていき、それに加えて、クルマのことなら国家試験の枠を超えた分野まで何でも学んでおきたいという学生が増えてくるでしょうし、人との対応の潤滑油になるはずの一般教養や、あるいは人間力を持つけるといった次元まで目標を高めてやってくる学生にも、的確に対応していかなければならなくなってしまいます。

そのようなことを考えつつ、我々の身の回りを見回すとき、我々が構成しているJAMCAの中でそういったこ

れからの変化に対して、先を見越した確かな手が打たれていることにあらためて気づかされます。

生き残り策きっちり

学生たちの高い目標に応えるためのファーストクラス・オートモビル・エンジニアの育成と自動車大学校の新設、更に強い人間力を備えたいと望む学生のための人間性教育ソーシャル検定の導入検討など、いずれも少子化の流れの中での生き残り策がきっちりと打たれているのです。

そういう意味でJAMCAの一員である我々は、将来に不安を感じる必要はなく、各校足並みをそろえて取り組んでいけばよいことにあらためて気づく反面、実は、そういった事柄に形だけで対応していくても決して本来の狙い通りになるものではなく、各校それが本来の狙いを真摯に汲み取り、その実現に向けて精進をし、実践を重ねていくことが求められていることに気づく次第であります。

各校、手を携えて、この1年も実りあるものにしてまいりましょう。

■ CONTENTS ■

2面	OPINION
3面	我が校自慢
4・5面	新しい呼称「高度専門士」と 大学院入学資格
6面	協会トピックス
7面	活躍卒業生・地区通信
8面	私の教材活用・編集後記